

横浜 SSJ ニュース

第 26 号
2019 年 2 月 1 日発行

発行：横浜 SSJ（特定非営利活動法人 横浜市精神障がい者就労支援事業会）

〒232-0022 横浜市南区高根町 3-17-12 KS ビル 6 階

TEL 045-315-2622 FAX 045-315-2623

発行責任者：理事長 菊地 綾子

編集：横浜 SSJ ニュース編集委員会

印刷：ワークショップメンバーズ

天を仰ぐ

理事長 菊地 綾子

人間のひどさに天があきれて罰を加えているのでしょうか？ とんでもない猛暑続きの夏はもはや天災。余程覚悟しないと出歩けない状況でしたが、それに重ねて台風が、これでもかこれでもかと襲来し、各地が激甚災害となりました。そこへ北海道の大地震。山肌が幾重にも崩れて赤い地肌がむき出しになった様子は、本当に自然の猛威をまざまざと見せつけられました。東日本大震災から続いて、まだまだ仮設住宅住まいを余儀なくされている方々が増え続けていることを思い、日本国がこの先どうになってしまうのか暗澹たる心地がいたします。被災された皆様に心からのお見舞いを申し上げます。

天災もさることながら、このところあきれているのは「水増し問題」障がい者雇用の水増しが中央省庁で 3,700 人、地方自治体で 3,800 人にも上るといふ。官公庁は事務仕事中心だから精神・知的障がい者に働いてもらにくいところがあって、水増しが横行したという専門家の分析が載っていましたが、まさに合理的配慮をして、新たな仕事を生み出していくのが使命のはず。横浜 SSJ のような「就労支援」に特化した団体が存立の意味があるのは、まだまだ障がいを持つ方々の就労が難しい現状があるからで、最終的には障がいを持っていても当たり前になれる世の中が来るようにという願いを目標にしている。それなのに、その願いに逆行するようなとんでもないことを中央官庁から地方自治体までもがやってくれたわけだから、われら日々利用者と血のにじむような努力を重ねている者たちは「勘弁してくれよ」と天を仰ぐほかはない。

毎日悪夢のようなことが起こる世のありようですが、おかげさまで横浜 SSJ では「戸塚」「滝頭」が 20 周年、「常盤公園」が 10 周年を迎え、記念会を開催することになりました。どの事業でも当初から働き続けてくれた方々がいて、本当に誇りに思います。最近読んだ孔子の言葉（政治論）に「近き者説び（喜び）、遠き者来たる」、近い者が喜び懐き、その噂を聞いて、遠くの者が自然にやってくる。そのようなことができたなら一番いいのではないかと思います。私も滝頭・戸塚・常盤、それぞれの設立の時からかわりを持って今日まで見てまいりました。それぞれほんとに小さな事業所でしたが、働くお一人お一人が一生懸命大事に守り育ててくださいました。その小さな歩みが今日の横浜 SSJ 総勢 200 名を超える活動につながっております。感謝の思いを持って天を仰ぎたいと考えています。元気を出して歩みましょう。

特定非営利活動法人 横浜市精神障がい者就労支援事業会

第12回横浜SSJ総会報告

新たなスタート 2018年度定例総会報告

平成30年度NPO法人横浜SSJの「第12回(平成30年度)定例総会」が5月31日(木)に日本丸訓練センターにおいて開催されました。会員総数120名(正会員108名・賛助会員12名)、理事3名、出席者53名及び委任状出席27名と多数の参加で会場は盛況となりました。

林真由美職員の司会により、菊地綾子理事長の開会の挨拶でスタートし、来賓の横浜市議員高橋徳美様、古谷靖彦様、横浜市民権フォーラム菅野義矩様、横浜市健康福祉局障害企画課長佐渡美佐子様よりご挨拶を兼ねてお話をいただきました。菊地理事長からのご挨拶には、「(自分らしく)続けられるために相談する」ことの呼びかけがありました。来賓の方々からは、「(当会)の事業目標に共鳴している」「家族会を通して、過去を含めて表に出れない方が一歩出られて働く所が出来たことの想い」や横浜市の具体的な政策「障がい者の就労、生活の場の充実に向け、雇用の確保と促進」についてのお話もありました。当会が多様な働き方を受け入れていることについて支持していただき、安心して働き続けられるよう応援していただけるとの温かなお言葉や祝辞をいただきました。

それから議長及び書記の選出が行なわれ、議長には田園工芸小林竜様が選出され事案審議に入りました。

第1号議案では昨年度の事業報告、第2号議案では決算報告がなされ、監事の松為信雄様より事業の執行並びに会計の内容が適正であるとの監査報告がありました。第3号議案では今年度の事業計画、第4号議案では予算について、第5号議案では、社会福祉法人設立に向けて必要な定款の変更について審議し、すべて可決・承認されました。閉会のご挨拶を市精連代表大友勝様よりいただき、無事に事業運営が正式にスタートすることとなりました。



昨年度に就労継続支援A型事業所となった久保山・戸塚・北部事業所では、相談しやすい環境が整えられたとのお声をいただき、順調なスタートを切ることが出来ました。さらに新たな取り組みとして短時間労働やフルタイムに近い勤務など多様な働き方が出来るよう体制を整えました。今年度もこれまで以上に皆さんが自分らしく働く事を支えていけるよう取り組んでまいります。

(多機能型事業所ジョブアシスト横浜 内田智子)

2019 年度に向けて〔政党懇談会〕 ～精神障がい者就労支援事業に関する要望活動報告

今年も横浜市会との政党懇談会の時期をむかえ 6 月 11 日(月)に公明党、日本共産党、自由民主党、6 月 19 日(火)に民権フォーラムの計 4 会派の政党との懇談会を行いました。例年、横浜 SSJ では独自に『精神障がい者就労支援事業に関わる要望』をまとめ施策や、就労環境の改善などについて意見交換を行っています。また懇談会には利用者、従業員を中心に当事者も参加して意見交換も行っています。今年も利用者、また元利用者で現在、就労している OB も意見交換に参加しました。

各会派とも限られた時間のなかでの懇談会でしたが議員の皆様は要望内容、そして特に当事者からの意見に対して関心深く耳を傾け、積極的に質問や意見をいただきました。

尚、要望内容をさらに精査して 8 月に要望書として正式に横浜市に提出しました。

◇今年度も政党懇談会に、ワークショップメンバーズのメンバーの方々も参加してくれました。そのうちのお一人に、参加しての感想を伺いましたので、皆様にお届けいたします。

私は障がい者枠での就労を目指して訓練しています。私の希望として就労した際、最初は自分に合った短時間勤務から始め、徐々に時間を延ばして会社に貢献していきたいと思っています。そのために法定雇用率を満たすためだけの雇用ではなく、障がい者が就労への第一歩として安心して働くための週 20 時間未満の雇用を充実させて頂きたいと思います。

週 20 時間未満の雇用期間を長めに設けることで安定して長く働くことができ、障がい者雇用が不安な企業には「障がい者の働く姿」を見てもらうことで「障がいがあっても働ける」ということを理解して頂けると思います。少しずつ勤務時間を延ばすことで法定雇用率を満たすための雇用につながるきっかけにもなると思います。

私は障がいがありますがひとりの人間として生きています。「障がいの有無に関わらず困った時は助け合うのが当たり前」と誰もが思える社会の実現を希望します。

今回の懇談会の発表を終えて議員の方に声をかけて頂きました。私の思いが伝わったと感じ、希望が持てました。このような機会を設けて頂きありがとうございました。

(ワークショップメンバーズ メンバーT)

事業所紹介

多機能型事業所における受注作業の今

～障害者優先調達推進法の流れの中で～

ジョブアシスト横浜・ワークショップメンバーズでは開所当初から内職の請負作業が活動のメインとなっています。当時は主に地元の2つの会社から内職作業を受注していましたが、製品一つの単価が一円に満たないものが主流、工賃の時給単価は百円に手が届かない時代でした。週5日通所しても月に6000円がやっと。



納品車を購入
しました！

職員が新規作業の受け入れのため、あちこち仕事を探し回る日々でした。そんな折2013年、障害者優先調達推進法が施行されたのです。この法律は簡単に言えば、障害福祉サービス事業所などに対し、優先的に仕事を発注したり事業所で作った製品を積極的に購入することを定めたものです。それにより、行政から私たちの事業所にも発注依頼が来ることとなったのです。ワークショップメンバーズでは優先調達法の行く末がまだ見えない中、新たな受注の開拓をすべく赤い羽根共同募金の助成金を申請して大型の印刷機を導入したところでした。今考えると小さな事業所にとってはとんでもなく大きな賭けのようなものでした。職員の中に印刷業出身者は一人もおらず当然機械の扱いも分からず、メーカーの担当者とともに、言うことを聞いてくれない機械と格闘する日々が始まりました。さらに、主な発注元である市役所や県庁との契約においては、行政ならではの複雑な手続きが必要で毎日のように書類を提出するため通い詰めることとなりました。そうした大変な経験を重ね少しずつ受注の数を増やし、2017年度には印刷専門員を2名に増員、2台目の大型印刷機の導入、今年度はついに念願の納品車を購入することができました。現在ではさばききれないほどの発注依頼があり、メンバーの皆さんにも残業していただくような状況です。工賃は単価500円に届く月もあり、ひと月で4万円近くになる方もいます。前述の職員たちの苦労もありましたが、何よりも短い納期を守りながら精度の高い製品を作っているメンバーの努力の成果なのです。どうすれば効率よくミスのないよう作業ができるのか、所内の至る所で真剣に話し合うメンバーの皆さんの姿があります。数年前のゆったりとした作業所の雰囲気とは違い、納期に追われめまぐるしい日々…メンバーが疲れてしまうのではないかと、病状が悪化するのではないかと、そんな私たちの心配を吹き飛ばすかのように、病状が安定して通所率が上がり、新規利用希望者も後を絶ちません。これまでの福祉の現場における援助の在り方について、もっと柔軟にもっと発展的に見直す必要があるのかもしれないかもしれません。そんな思いもあり、私たちの事業所では優先調達法だけに頼るのではなく、民間の企業にも足を運び積極的に仕事を請け負うようにしています。発注元の企業からも高い評価を受け継続的に仕事をいただけるようになりました。障がいや病気があっても特性や能力を活かして素晴らしい仕事ができるのだということを、理解し支え合える世の中になってほしいと願いつつ、ジョブワークは今日も慌ただしい一日を送っております。

多機能型事業所 金子由紀子

～就労継続支援 A 型事業所 久保山・戸塚事業所～

久保山・戸塚事業所は、昨年度 4 月から就労継続支援 A 型事業所として新たなスタートを切りました。昨年度は、ミーティングやレクリエーションなどを通じて、従業員の皆様と意見を交わし、様々な表情を見つけることができました。

○企画委員会を立ち上げました！

昨年度は数多くのミーティング、レクリエーションを行ってきましたが、今年度から、従業員が主体となり、ミーティングや各種プログラムの企画を行う事を目的とし、久保山・戸塚事業所の従業員と職員で構成する企画委員会を立ち上げました。早速、企画委員会を 6 月 22 日に行い、活動室の利用方法などについて検討をしました。今年度も昨年度に負けないよう様々なプログラムを企画し、実施していきます。



○デザートウィーク！

6 月 11 日から 15 日までデザートウィークを開催しました。期間中、お弁当を注文された方に食後のデザートとしてプリンをつけてお弁当を召し上がっていただきました。おいしいお弁当と食後のデザートの組み合わせは最高で、好評でした。

(久保山・戸塚事業所 職員・小澤大夢)



～就労継続支援 A 型事業所 北部事業所～

北部事業所は昨年から今日までに、5 名の新しい従業員が増えました。初めは緊張度が高く離れていても伝わってくるものがありましたが、最近は環境に慣れ余裕も感じられるようになってきました。先輩従業員の協力もあってと思いますが、ご本人達の仕事を続けたいという気持ちがあつてこそだと思います。その中のお一人に初心の気持ちを文にさせていただきました。まじめな人柄をぜひ感じてください。

「SSJ に勤めて思った事」

2018 年 3 月 2 日正式採用の契約を受け北部従業員として働かせていただいています。

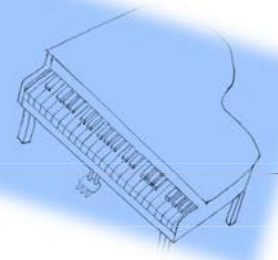
契約を守り清掃の仕事、休憩室を 2 人で清掃する時 1/2 を目標としてその手前にいる場所から 1/2 にとどく様努力します。総会で聞いた役職を覚え、先輩後輩の従業員の言うことを参考にして 1 年間、2 年間 3 年間 4 年間 5 年間、これ以上の契約を受けたいと努力したいと思います。



(北部事業所 杉崎 裕介)

地域活動支援センター“すきっぷ”の活動

“すきっぷ”ではメンバーさんからの意見を大切にして活動しています。
 今回もメンバーさんの提案から始まった音楽会を紹介します。



<提案してくださったメンバーさんから>

「音楽会について」

5月下旬すきっぷで音楽会を行いました。各々気に入っている曲、他の人にも聴いてもらいたい曲など前もって選んでいただきました。聴くだけの参加の人もありましたが8名がCD、スマホを持参しました。ホワイトボードに選曲した人の名前、曲名、アーティスト名、ききどころを記入し始めました。アーティストのプロフィール、選んだ理由などお知らせして各自、曲をかけていきます。身体でリズムをとっている人もいました。

音楽はジャンル、年代、時代、地域を問わず楽しめます。

普段あまり聴かない曲もあり新鮮でした。他の人々に聴いてもらうことで達成感、充実感を得ることが出来ます。

生活していると山あり谷ありの連続で大変な時もあります。そのような時、音楽は折れそうになった心を暖かく包んでくれます。また気持ちを明るくしてくれます。約1時間で音楽会は終了しました。このような音楽会は1人で音楽を聴く場合と違い仲間意識を育ててくれます。音楽会がこれからも続き参加者が楽しいひと時を過ごすことが出来ればと願っています。 “すきっぷ” M

<参加したメンバーさんからの感想>

いつも自分の枠だけのミュージックしか聴いていなかったが
 本日視野が狭いことに気がつきました。

人それぞれ、お気に入りの曲がありスローからアップテンポ
 まで多数聴けてとても良かったです。 (隊長)



“すきっぷ”では公園清掃や黄金町ステップワンなど地域に貢献できる活動
 をしています。

横浜市中区役所での中区障害者団体合同展示会もその一つです。

今回のテーマは「花火と金魚」。すきっぷのメンバーさんたちが作成した
 金魚たちを花火をバックに展示させていただきました。

そして横浜中ロータリークラブでの創立記念事業第3回障がい者作品展では特別賞をいただきました。
 今後も地域と関わりを持って活動していきます





新人職員紹介

～ジョブアシスト横浜・～ワークショップメンバーズ～

4 月 1 6 日にワークショップメンバーズに配属されました河原雄一です。前職では知的に障がいのある方の作業支援を行っておりました。

趣味は登山とディズニーソングを歌うことで、登山は一人で丹沢の山を登り、カラオケは一人でデュエットの曲を歌う寂しい男です。

横浜市内のどこかにメガネを掛けた短髪のディズニーT シャツを着た身長 189 c m の 2 9 歳男性がおりましたらそれはきっと私ですので是非お声掛けください。特徴的な風貌をしているのですのですぐに気づけるかと思います。一日も早く皆さまのお力になれるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。

(ワークショップメンバーズ 河原雄一)

今年の 4 月にワークショップメンバーズへ入職しました野尻と申します。これまでは高齢者福祉の世界に長くおりましたが、この度こちらの分野へ飛び込んで参りました。

初めて行う業務にあくせくしていますが、まわりの職員には丁寧にご指導して頂き、メンバーさんにも優しく接して頂いて、職員・メンバーの皆さまには深く感謝をしております。こちらの就労移行支援、就労継続支援の事業所を利用しているメンバーさん一人一人に、就労に対する目標や思い描くゴールのイメージがあると思います。私はその思いを大事にし、そこへ向かって苦楽を共にする伴走者になりたいと思っています。至らない点多々あるかと思いますが、私も勉強をしていきますので、これからもどうぞよろしくお願い致します。

(ワークショップメンバーズ 野尻哲哉)

～すきっぷ～

5 月より“すきっぷ”に勤務しております庄内と申します。4 半世紀前までは心理職として医療と教育分野に従事し、ここ 2 年はメンタルクリニックで予診と事務をしておりましたので福祉の分野は初めてです。

先日の片柳先生の研修で「利用者さんは時間と労力を使って通所されているのだから、なんらかのお土産を持ち帰ってほしいという意思を忘れずに」というお話がありました。

お土産には程遠いのですが、せめてお持ち帰りのための袋程度にはなりたくと只今勉強中です。遅々とした歩みながらも前進していく所存ですので、皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

(すきっぷ 庄内成美)

～北部事業所～

北部斎場売店に昨年 6 月に入職して、ちょうど 1 年になりました。以前少しだけ同じ様な仕事に携わったことがあり、その縁で働くことになりました。仕事も少しずつ覚えてきて、一緒に働く皆さんから「飯沼さん」って話しかけてもらえると、とっても嬉しいです。

幾つになっても新しいことをはじめるときは、ドキドキします。制度の壁、企業が持つ壁、支持者が持つ壁、当事者が持つ壁。とりまく環境が改善され、それぞれのニーズに合った働き方が出来ることを望んでいます。

まだまだ解らない事が沢山ありますが、サポートできるように頑張りますので宜しくお願い致します。

(北部事業所 飯沼松江)

メンバー・従業員の「声・こえ・コエ」

今回のテーマは「支援者」です。皆さんにはいつもテーマだけ伝えて、自分でイメージを膨らましてもらっています。現在支援者と関わっている方々にとって、書き辛いテーマだったと思いますが思い思いに書いて頂きました。

～支援について～

私は子供の頃からじぶんがどうしたいかを人に伝えるのがあまり得意ではなかった。支援者にも、自分がこんなふうに働きたい、こんな風に生活したい、そのためにどうすればいいかを考えましたと頭では伝えられるイメージをもっているのに、現実では、上手くいかなかった。何度も、支援者とぶつかったり、逃げたりをして。



勇気を持って伝えたら。それでは、こうしてみたらどうですか？って提案をもらった。その時に、自分では気づけなかったが・・・。“やっと笑った”って言ってもらえて。自分も前に進める・・・！そんな気持ちになった。

(すきっぷ 日下部 真由)

～生きていくということ～

はじめに

どんな人も1人では生きていけません。誰かの助けを受けて初めて自分の足で立てるのだと思います。

13歳の時、自分が精神障がい者となってしまった時、これから今後の長い人生を私はどう生きていけばいいのか、目の前の風景から色が徐々に無くなっていったのを未だ覚えています。

風景や景色から色彩が失われていきながら私も少しずつ、でも着実に自分という色も消えて無くなるのだろう。その方が周りにとっても自分にとっても良いことなのかもしれない、そう思っていました。そんな事を考えていた頃、一番に考え寄り添ってくれたのは私の母でした。色が無くなりつつある私に色を継ぎ足してくれたのです。その母も約6年ほど前に亡くなりついに本当の独りになってしまったのだと思いました。

① J・W 作業所に通所するようになってから

当時、自分の足で立って歩いているという感覚がなく、むしろ重荷を背負いながら這いつくばって移動しているのではないかと、そう感じながら苦しい日々を送っていました。しかし家の近所にある作業所に通所するようになってから幾分心と身体に抱えていた重荷は軽くなっていきました。

作業所には同じように悩みを抱えながら生きている人たちが多くいたからです。中には私より辛い人生を送っている人もいました。なにより支援者という心強い味方がいることが私にとっては1番の安心材料でした。入院した後も紹介されたデイケアに約1年半ほど通い人間関係の再構築を学び、それはJ・Wに戻ったときにとっても役に立ちました。私を含め精神障がいを持っている人が社会に受け入れられない理由の大きな要因の一つが人間関係なのだと作業所で学びました。

②約3年半の通所から今の生活に至るまで

自分自身の人間関係を見直し現状の生活に満足せずに諦めなかった結果、就労の話が来ました。自分の性格と人間関係の見直しが今の職場で活かしています。就労してから私は思いきって目標だった1人暮らしを始めて1年2ヶ月が過ぎました。諦めなかった結果だと思います。



③今後の支援のあり方

私は今の生活に満足はしていません。まだ目標があります。まだ改善、QOL＝生活の質を上げることが出来ると考えているからです。

ただ支援に関して欲を言えるならば、就労体験というものをもっとバリエーションを多くしてほしい。例えば、事務や接客、製造と言ったものやそれ以外の体験を増やす、そうすれば自分の得意不得意や能力、目標に実感が持てるのではないかと思います。さらに言えば社会全体が障がいのある人もない人にも寛容になってくれれば良いな、と思います。まあそれはまだ先になるでしょうけど。

最後に

卑屈にならず謙虚な姿勢で臨むと自ずと道が見えてきます。

また、諦めない人は支援の手は多くなります。人の話を聞いてネガティブになったり卑屈にならずに謙虚な姿勢で行動すれば支援というものに納得し意味を成します。支援される側だとしても相手の事を想う人間になりたいものです。

(ワークショップメンバーズ・ジョブアシスト横浜 OB ビンズ・まこと)

～支援者について～

若いころに出逢った日暮さんという病院のケースワーカーに、お世話になりました。当時日精病院という病院でしたけれど、親身になってくれた人でした。薬の飲み方や、たわいのない話しも笑顔で聞いてもらった年上の女性でした。藤村先生という名医を池袋まで追いかけていった結果、先生が定年になるまで面倒を見てもらいました。今でも、年賀状のやりとりは続いています。

北部斎場に来てからは、依田さんというスタッフに世話になりました。仕事でバテている時に、

甘いものを頂いたり、精神的なケアをしてもらいました。また、ソフトボールを宮本工業さんと試合した時などは、応援してもらいました。この人たちがいなかったらもっと荒れた人生を送っていたと思います。

最近では、亀井さんと中澤さんにやさしくときにはいい意味で厳しく、社会の常識まで教えてもらっています。2人とも綺麗で可愛いお嬢さんです。

(北部事業所 鷹野恵)

～支援者に求めるもの～

これは、私個人の好みですが、メンバーに対して、きちんと敬意を持って接してくれるスタッフが好きです。以前、通っていた作業所で、年配の重度のメンバーに、若いスタッフが「〇〇しましょうね。」と、まるで子供に接するような態度を取っていました。いくら重度といっても、人生・社会の先輩であり、敬意を払おうよと思っていました。年下なら良いわけでもないですが。

私の場合ですが、支援者は複数いると助かります。弱音・愚痴を聞いてくれるスタッフ、厳しく、社会人として甘えを許してくれないスタッフ、上下関係のようなスタッフとメンバーという関係ではなく、ちょっとした先輩・後輩、友人のような存在のスタッフ。もちろん、どのような関係であっても信頼関係は必要だと思います。逆に、スタッフのメンバーに対する信頼も大事だと思います。

私は、スタッフの信頼を裏切るような事をしてしまうことがあります。気を付けたいと思います。それでも、やはり後者の存在は大きいです。

家族でもない、会社の上司でもない、友達でもない、恋人でもない。でも、支援してくれる、相談に乗ってくれる。感謝しています。一般社会にはない存在です。

私の好みで申し訳ないですが、メンバーを型にはめて見ないスタッフが好きです。

以前、病気になったばかりの頃、無料で受けられる、ある学校のカウンセリングを受けたのですが、とにかく子供時代の事ばかり聞いてきて、トラウマばかり探そうとする。テキストに書いてある事ばかりが答えではないと、おこがましくもその時、私は思いました。

色々なスタッフ、色々なタイプの支援者がいるのが良いと私は思っています。自然体、素の状態で接してくれた時に、私は嬉しく感じます。

(久保山・戸塚事業所 ペンネーム スナフキン)



フリースペース

SSJ を利用している方々には、多彩な才能や考えを持っている人がたくさんいます。その方々の持っているモノをご紹介します。このコーナーです。

<四季について (part1) > 毎歳、春、夏、秋、冬をかさねて (Self News3)

自身3度目の SSJ news は四季に関する事です。要約的に記述します。

春といえば花見であれ、山菜狩りであれ人それぞれです。花見というと人集りで面倒臭いという感じが先にくる筆者は、四季に纏わる始まり、変化、終わりをたしかめることが普通です。地域差はありますが、以下の内容は自宅近辺をはじめ神奈川県辺りのことです。

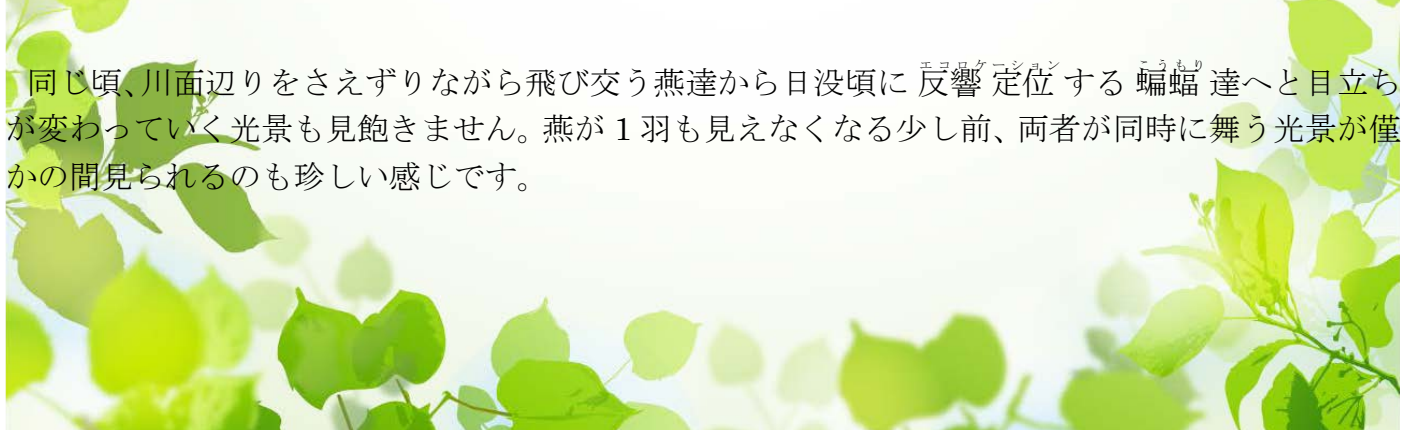
3月中旬位からドクダミ、アマチャヅル等の野草が芽生え、蝶や燕もみられはじめます。4月上旬位には、多くの落葉樹が新緑を湛え、青空と対比して目を潤します。同月中旬位では外来種の野草の白や黄色の花が目立つ他、ラン等の貴重な野草も花を咲かせます。樹木ではミズキの花などが鮮緑にくわわり、春本番らしくなります。5月中旬辺りからミズキなどの春の花の多くが飛散します。地上付近は外来の野草の花ばかりが目立つ感じです。

森林や山々は深緑に染まり、杜鵑の鳴く声がこだまし、局部的に春蟬の鳴く音もきこえる頃には、多くの夏緑性のシダ類も出現します。



夏になれば梅雨と紫陽花というだけでは浅はかです。梅雨入り後は、今季に生じたシダの多くが胞子囊群を湛えます。シダの部分採取（以下採植）に忙しむ頃です。夏至の頃、夏蟬の鳴く音が聴こえてきます。カラスの飛翔とともに夏至らしい夕空がみられます。梅雨明けの頃から9月下旬位迄、セミのこえがやかましくきかれる頃ですが近年は減少傾向にある感じで、違和感がします。8月半ばには冬緑性のシダがみられ、アオマツムシやコオロギ類の鳴く音が普通に聴こえます。9月中頃迄、夕焼け空が鮮やかな頃のセミの盛んな音から暗くなるにつれ秋によく鳴く虫の音色への移り変わりをたしかめられます。日本の秋本来の夜長を占領する外来種のアオマツムシの羽音ばかりが盛大ですが、夕方から夜への変化とともに蟬類は鳴りを弱め、アオマツムシをはじめとする秋の虫達が盛り上がっていくリズムは毎年飽きません。

同じ頃、川面辺りをさえずりながら飛び交う燕達から日没頃に反響定位する蝙蝠達へと目立ちが変わっていく光景も見飽きません。燕が1羽も見えなくなる少し前、両者が同時に舞う光景が僅かの間見られるのも珍しい感じです。





8月下旬から10月下旬の間、秋雨前線が生じる他、キイロスズメバチがいきり立つ頃なので採植時は要注意します。梅雨前線より小規模で入り明けの定まらないとされる秋雨前線の方に激しさとながさを感じるせいか、入り、明けを勝手に想像しています。秋雨明けた(?)頃にはセミのこえはなくなります。11月上旬位には、森林、山々は紅葉し、落葉もみられます。同中旬には風で流れ落ちる銀杏の葉もくわわり、秋本番の風情らしくなります。

同下旬に採植する頃には、雪化粧した山頂付近と落葉しかけた紅葉がみえる中腹付近が織りなす初冬と晩秋の^{コントラスト}対比に目を奪われ、写真に撮ることも収穫です。冬鳥達の季節を知覚しやすい頃です。12月上旬には秋の虫の音色も絶え、一部の地域と種を除き、多くの夏緑シダが枯れ、常緑のシダばかりになり、冬緑のシダも色あせてきます。

でも、危険な生物のいないこの頃は、茂み深く採植する事で、珍種等が見つかることもあります。

翌1月中頃には、多種の冬鳥や留鳥のさえずる姿がよく目立つ頃で、梅の花や適度な^{降雪}降雪がくわわると冬季らしい風情になります。2月上旬、海岸近くで採植する時、冷たく澄んだ^{スカイブルー}青空と^{マリンブルー}青海の^{コントラスト}対比が目にはやきつきます。同中旬辺りから冬鳥は少なくなっていく感じで、局部的にドクダミや越冬した蝶もみられ、翌春の気配が漂う、そんな日本の四季のながれは、^{あたりまえ}当前ではなく飽きることはありません。

(北部事業所 白井貴明)

【会費納入 報告】

2018年度4月から9月末までの会費の状況です。

○個人・団体 90名

いつもありがとうございます。精神保健福祉向上のため、大切にに使わせて頂きます

《編集後記》

今年の夏は異常とも言える暑さで最中は皆さん踏ん張っていましたが、秋になるとふっと力が抜けたのか体調を崩される方が多かったです。11月になってもコートを着ていて暑い日もありましたが、12月の終わりになって寒波もやってきて、徐々に変化してもらえるとありがたいのですが…。新しい年は、異常と言われる2018年よりももう少し優しい年になることを強く願っています。